

多様な人材が活躍する 「名駅」を目指して —都市間比較から考える—

CONTENTS

- 1 | はじめに
- 2 | 都市間比較で見る名古屋市／名駅地区
 - (1)「若い女性が少ないまち」なのか
 - (2)「若い男性と女性のバランス」とその「変化」
 - (3) 駅前エリアの従業者の産業別割合
 - (4) 名駅地区は「クリエイティブな人材」の集積が少なめ
- 3 | 多様な人材が活躍する「名駅」を目指して
 - (1) 名古屋と対極的な大阪と福岡
 - (2) 大阪市の事例
 - (3) 福岡市の事例
 - (4) カギは「フラットな交流」と「キャリアアップ支援」
- 4 | おわりに

1 はじめに

名古屋市の名古屋駅地区（以下、名駅地区）は2017年、新たな節目を迎えた。4月に「JRゲートタワー」が全面開業し、駅東側で計画されていた大規模再開発ビルがほぼ揃ったほか、10月には駅南側の「ささしまライブ24」の開発が完了して地区に広がりも出てきた。2027年のリニア中央新幹線開業に向けて、今後はリニア駅の建設などが進む。

名駅地区の発展も後押しとなって名古屋市は人口増加が続いているが、課題も見られる。例えば若い女性の関東圏への転出傾向だ（図表1）。働きがいやキャリアを重視する若い女性は、より活躍できる場があると考える関東圏へ就職の機会を求めているとの指摘が目立つ。

名古屋市を含む中部圏は製造業

が集積しており、従来から働き手としての男性の需要が大きい。しかし、これからは女性を含む多様な人材の活躍こそが都市の活力を支えていくと考える。

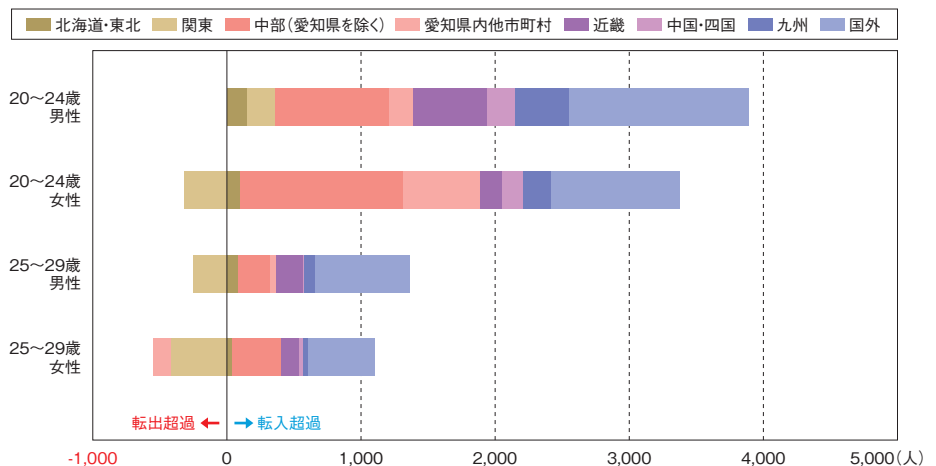
そこで本稿では、名古屋市と主な政令指定都市を比較しながら、名駅地区が多様な人材の活躍を生み出す場となっていくために求められる機

能について提案を試みたい。

2 都市間比較で見る 名古屋市／名駅地区

本稿では、「多様な人材」について、「若年女性人口」と「クリエイティブな人材」の2点において都市間比較を行うことにした。

図表1 名古屋市の20代男性・女性の地域別社会増減
(2015年10月～2016年9月の累計)



前者については、名古屋市の課題として若い女性の関東圏への転出傾向が挙げられることを踏まえた。

後者については、近年、国の成長戦略などで高度なIT(情報技術)人材、自社の商品・サービスに「差異を生み出す」能力を持つ人材、海外需要を見据えた観光産業・アニメ産業人材など、クリエイティブをキーワードにした人材の重要性が指摘されていることから取り上げた^(注1)。

(1)「若い女性が少ないまち」なのか

はじめに、東京23区と主な政令指定都市11市について、2015年の国勢調査結果から人口全体に占める若年女性(20~34歳)人口の割合を見ると、名古屋市は東京23区などと比べて割合が低いものの、横浜市、神戸市などよりは高い(図表2)。

都市部では職を求めて地方部から多くの若者が転入してくる動きが見られる。名古屋市においても20代女性は、関東圏以外に対してはほぼ転入超過となっている(図表1)。また、市の人口全体に占める若年女性の割合は全国平均を上回っており(図表2)、「若い女性が少ないまち」とまでは言えない状況だ。

(2)「若い男性と女性のバランス」とその「変化」

続いて、「若年人口における男性と女性のバランス」について見るため、若年男性(20~34歳)100人に対する同年齢の女性人口を1985年と2015年の国勢調査結果からそれぞれ算出した(図表3)。

1985年は「男女雇用機会均等法」が成立した年で、これを境に女性の社会進出に対する取り組みが増えたと思われることから、比較の対象とした。

2015年の結果を比べると、都市間でバランスの「現状」に差が見られる。福岡市や札幌市などは、若年男性100人当たりの同年齢女性人口が100人を大きく上回っており、若い女性の方が多い。逆に名古屋市や川崎市、横浜市などは、若い男性の方が多い。

また、1985年から2015年にかけてのバランスの「変化」にも違いが見て取れる。福岡市や川崎市などは、この

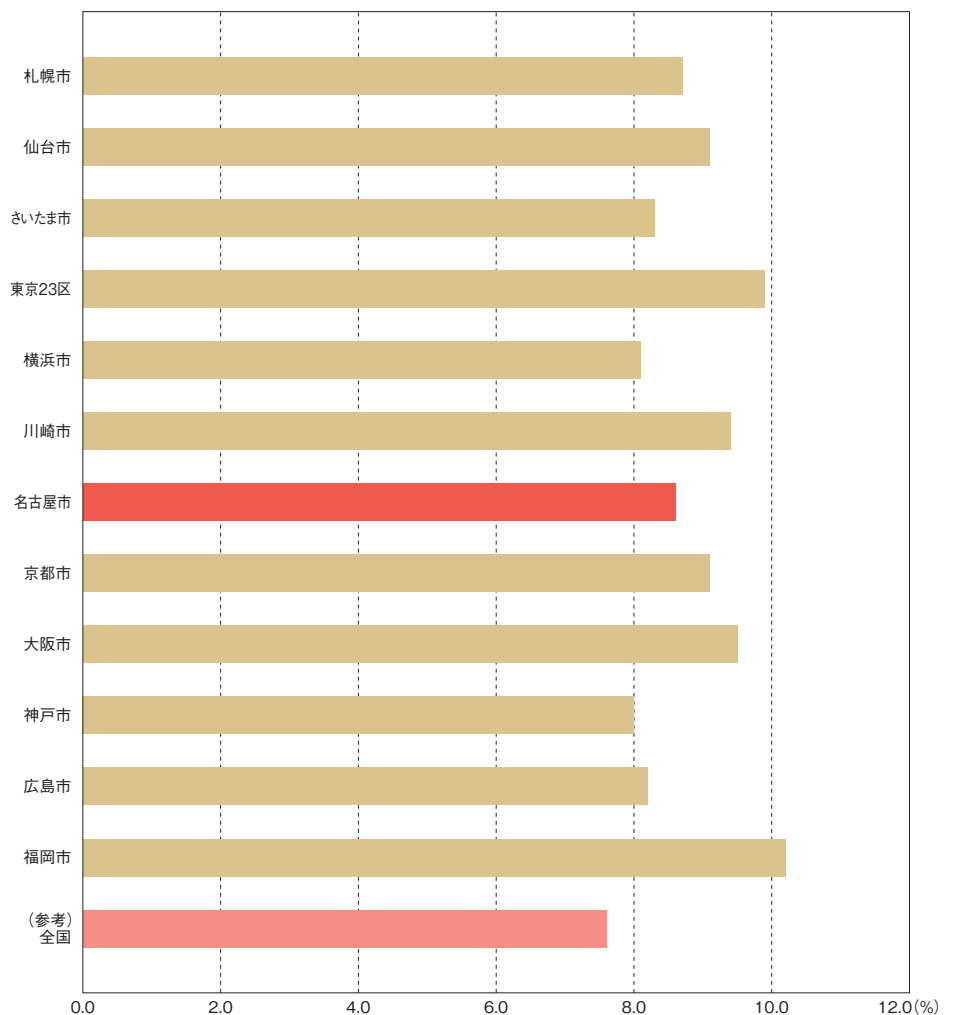
30年間で若年男性100人当たりの同年齢女性人口が大きく伸びている。一方、名古屋市や神戸市などは小さな伸びにとどまっている。

上述したバランスの「現状」と「変化」の組み合わせから、各都市の傾向を散布図で表したのが図表4である。

名古屋市は他の都市と比べて、若年男性の方が若年女性より多く、30年間の変化も少ないことがうかがえる。今回比較した中では、「若い男性と女性のバランス」とその「変化」の点では最も低位な都市であると言えよう。

製造業が盛んな中部圏は雇用に

図表2 東京23区と主な政令指定都市の人口全体に占める若年女性(20~34歳)人口の割合比較(2015年)



出所：総務省「国勢調査」よりOKB総研にて作成

(*)政令指定都市のうち、2015年国勢調査結果で人口100万人以上の11市(外国人・年齢不詳を含む)を比較対象とした。以下同じ。

における男性の需要が大きく、1980年代後半から女性の社会進出が本格化してきた中でも、若い女性が集中する動きは緩やかで、若い男性の方がより多い状況が続いていることが見て取れる。

(3) 駅前エリアの従業者の産業別割合

次に、駅前エリアにおける「クリエイティブな人材」の集積について見ていく。

名古屋市をはじめ全国の政令指定都市の主要駅前一帯、いわゆる駅前エリアは、再開発などによってその

都市のビジネス拠点の中心になっていくことが多い。そこで、11政令指定都市の駅前エリアに相当する区の従業者がどのような産業・業種に就いているかを比較してみた。

具体的には、それぞれの市についてJR主要駅から約500m圏内に入る区のうち、2017年1月1日時点の公示地価(商業地)でより高い地点がある区を選び、その区内の民営事業所に勤める従業者について産業別の割合を算出した(図表5)。

名駅地区を含む名古屋市中村区を見ると、「製造業」や「卸売業、小売

業」などは11市の駅前エリア平均を上回っている。一方、「情報通信業」「学術研究、専門・技術サービス業」「宿泊業、飲食サービス業」の3分野は平均を下回った。

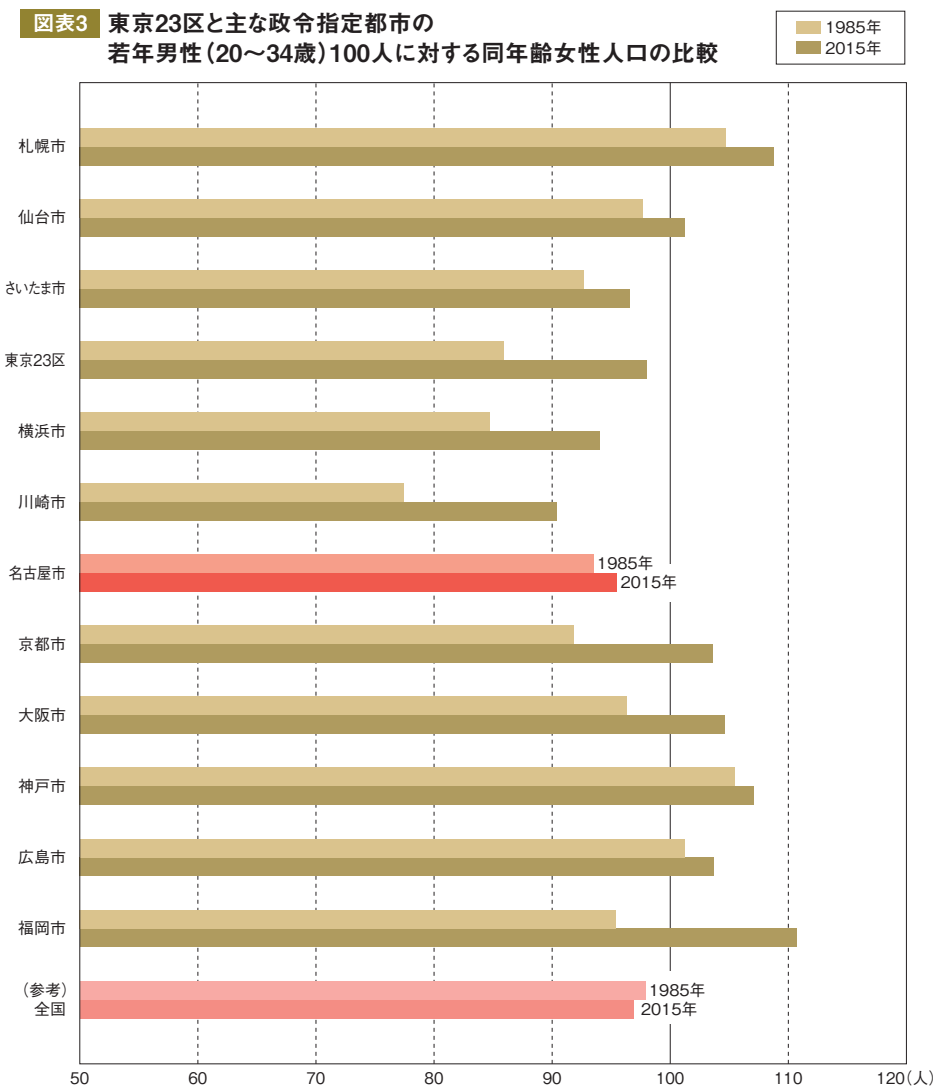
(4) 名駅地区は「クリエイティブな人材」の集積が少なめ

続いて、この3分野のより細かい分類(業種)から二つずつピックアップして、全体および男女別に割合を算出した(図表6)。

名古屋市中村区は、「ソフトウェア業」(全体、男性、女性)と「専門料理店」(女性のみ)で11市の駅前エリア平均を上回ったものの、残る業種は平均を下回った。

平均を下回ったのは、IT関連の技術者やクリエイター、デザイナーや建築家、インバウンド(外国人旅行者)に対応できる観光関連事業者など、新産業の創出や魅力的な都市づくりを支える人材が比較的多い産業・業種とされている。名駅地区は、こうした「クリエイティブな人材」の集積が他都市の駅前エリアと比べてやや少ないと言えそうだ。

図表3 東京23区と主な政令指定都市の若年男性(20~34歳)100人に対する同年齢女性人口の比較



出所：総務省「国勢調査」よりOKB総研にて作成

(*)1985年については、さいたま市(2001年誕生)は旧浦和市・大宮市・与野市・岩槻市の合計で算出したほか、仙台市は旧泉市・宮城町・秋保町(1987~1988年編入)、京都市は旧京北町(2005年編入)、広島市は旧湯来町(同)をそれぞれ含む。

3 多様な人材が活躍する「名駅」を目指して

(1) 名古屋と対極的な大阪と福岡

「若年女性人口」と「クリエイティブな人材」に着目した都市間比較からは、名古屋市および名駅地区と対極的な状況の都市が浮かび上がってくる。

例えば大阪市は、若い女性の方が若い男性より多く、若い女性が集中し

てきた状況がうかがえる(図表4)。駅前エリアに相当する北区は、クリエイティブな人材が多いとされる産業・業種のほぼすべてで名古屋市中村区の割合を上回っており、「デザイン業」の集積は11市の駅前エリアの中で最も高い(図表5、6)。

また、福岡市では若い男性と比べて若い女性の集中が高く(図表4)、駅前エリアに相当する博多区には、クリエイティブな人材が多いとされる産業・業種の比較的高い集積がある(図表5、6)。

そこで、大阪市と福岡市において、女性やクリエイティブな人材の活躍につながるような取り組みとして注目される事例を見ていく。

(2) 大阪市の事例

大阪市では、JR大阪駅北側の通称「うめきた」地区の再開発プロジェクトで、2013年4月に民間企業主体で開業

した「グランフロント大阪」(北区)の中核施設「ナレッジキャピタル」(図表7)が知られている。

ナレッジキャピタルは、産業創出、文化発信、国際交流、人材育成の四つを目的とした産学連携・知的創造拠点として、大小の貸しオフィス、公演や発表会・セミナーに対応する多目的劇場、ベンチャー企業や大学などが試作品や開発中の技術を展示できるラボ、企業が新製品やサービスを紹介するショールームなどで構成される。

施設への入居・参画は2017年3月末時点で民間企業、大学、行政、研究機関など約150社・団体に上る。京都大学発の電気自動車ベンチャーや、クロマグロの完全養殖の成功で知られる近畿大学が飲料・食品大手や和歌山県と連携して展開する養殖魚の専門料理店など、話題の企業やテナントも多い。

また、経営者や企業に勤める人、研究者、クリエイターなど分野を超えた人々が交流する場である「ナレッジサロン」の有料会員数は2,000人を超える。気軽に立ち寄れる「駅前」の利便性を生かして、多様な人材がさまざまな形で集まる環境をつくり出したことで、企業同士の共同開発や、企業とクリエイター、大学、国際機関などの連携が生まれやすくなっている。

ナレッジキャピタルの運営は、二つの組織が担っている。一つは「株式会社KMO」で、施設管理と貸しオフィスなどの収益事業を担当している。同社はグランフロント大阪の開発を手掛けた建設、不動産、住宅メーカー、地元私鉄など12事業者(現在は11事業者)が出資・運営している。

もう一つはKMOなどが設立した「一般社団法人ナレッジキャピタル」で、イベント企画や外部連携などの公益的事業を担当している。

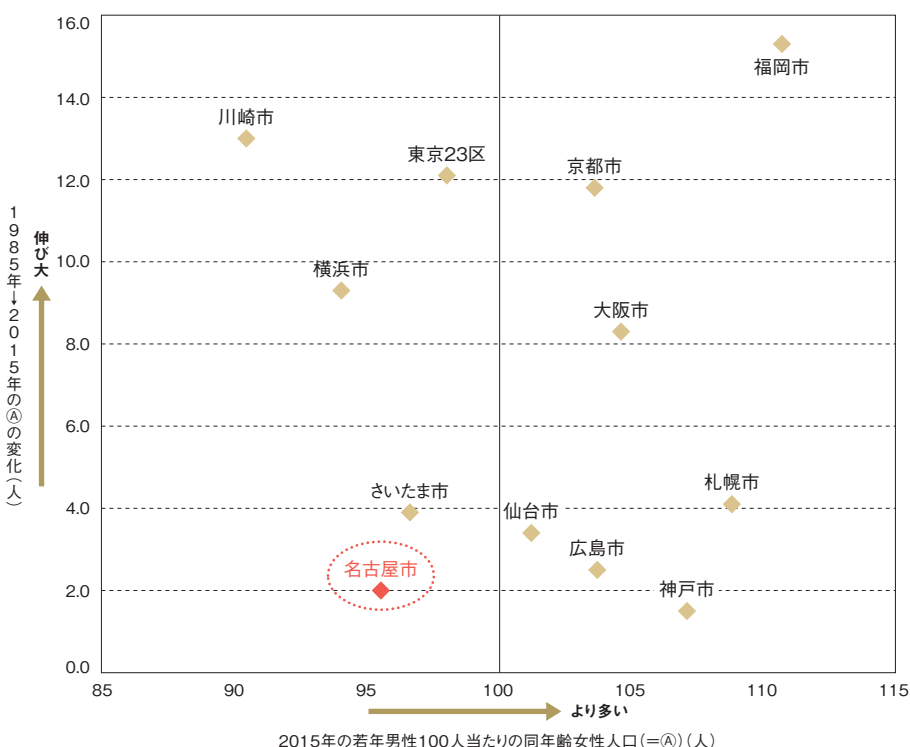
このほか、大阪府、大阪市や地元経済団体、地元大学などがナレッジキャピタルの各種事業を後援している。大阪市は2016年から、ナレッジキャピタル内にある「大阪イノベーションハブ」を拠点として、起業間もないベンチャー企業を成長軌道に乗せるために支援・育成する事業を始めた。

(3) 福岡市の事例

福岡市は、福岡県内の他市町村や九州内の他県から若い女性の転入傾向があるが、一方で、男性を中心に市内の学生の約半数が就職時に九州以外の大都市へ転出しているという課題も抱えている(注2)。

そこで、福岡市は九州の拠点都市

図表4 若年男性と女性のバランスの現状と、若年女性人口の伸び



出所：総務省「国勢調査」よりOKB総研にて作成

として「創業」に着目した取り組みを進め、2014年に「福岡市グローバル創業・雇用創出特区」として国家戦略特区に指定された。

特区指定により、起業家育成に向けた支援策が多数進んでいるが、JR博多駅前から比較的近い天神地区(中央区)の廃校施設を活用した「福岡市スタートアップカフェ」(図表8)がユニークだ。

スタートアップカフェは創業を目指す人と、先輩経営者など創業を応援する人の交流拠点として2014年10月に開設され、2017年4月に市内の他の創業支援施設とともに現在の場所に集約された。「駅近」の好立地で午後10時まで営業し、専門のコンシェルジュが常駐していることから、起業や独立を考える人が平日の仕事帰りでも立ち寄れるなど、創業に対する「敷居の高さ」をなくす工夫がなされている。

創業に関する各種の相談に対応するほか、起業・独立時に必要な手続きや人材確保、資金調達などに対する支援のワンストップ窓口として、専門家・専門機関を紹介するなどのサポートを行っている。女性や高齢者のための創業セミナーや、創業希望者

が仲間を集めやすくするための各種交流会なども開いている。2017年5月には、スタートアップカフェを利用した起業が100社に達した。

スタートアップカフェは福岡市の事業として運営されている。市内の先輩経営者らによる創業支援団体が、スタートアップカフェでさまざまなイベントを開くなど市と協力関係を築いており、行政・企業・市民が一体となって起業家を育てていく環境が生まれていることが注目される。

(4) カギは「フラットな交流」と「キャリアアップ支援」

大阪市と福岡市の事例に共通するのは、「フラットな交流」と「キャリアアップ支援」の2点だと考える。

「フラットな交流」とは、さまざまな人が組織や肩書を超えて交流していることを指す。例えばナレッジキャピタルでは、「ナレッジサロン」が異業種人材の交流の場となっている。福岡市スタートアップカフェでは、創業希望者だけでなく、先輩経営者や市民らが気軽に出入りしている。

もう一つの「キャリアアップ支援」は、個人のビジネス能力や可能性の向上

をサポートすることを指す。ナレッジキャピタルでは、入居している企業や大学、研究機関などの間で生まれるプロジェクトや連携を通じて、個人のチャンスを広げている。福岡市スタートアップカフェは創業支援を通じて個人の可能性の拡大を支えている。

さらに大阪市と福岡市は、こうした「フラットな交流」と「キャリアアップ支援」によって多様な人材の活躍を生み出す拠点が、ともに「駅前」や「駅近」のエリアにある点が特徴だと言える。

従って、名古屋市においても、「フラットな交流」と「キャリアアップ支援」によって多様な人材の活躍を生み出す拠点が名駅地区にあることがカギになると思われる。リニア開業に向けて今後予定されている駅前プロジェクトの中で、こうした拠点の実現を目指していくべきだろう。

実現に向けては、駅前プロジェクトの開発事業者や地元企業による運営組織(プロジェクト全体のマネジメント組織)を設けて、多様な人材の活躍を生み出す拠点の設置を含めた計画を進めていく方法が考えられる。

名古屋市など行政は、必要となる規制緩和などを進めるとともに、今後

図表5 駅前エリア相当区の従業者数の主な産業別割合
全体

市名	区名	駅名(JR)	建設業	製造業	情報通信業	運輸業、郵便業	卸売業、小売業	学術研究、専門・技術サービス業	宿泊業、飲食サービス業	生活関連サービス業、娯楽業	教育、学習支援業	サービス業(他に分類されないもの)
札幌市	中央区	札幌	4.40	1.31	7.30	2.31	20.00	4.52	14.45	4.56	2.23	19.20
仙台市	青葉区	仙台	7.95	1.73	4.87	2.17	19.20	5.70	12.07	3.81	6.34	15.31
さいたま市	大宮区	大宮	5.83	1.79	2.86	3.60	21.37	2.83	12.68	4.90	3.89	21.86
横浜市	西区	横浜	3.88	3.40	9.02	3.07	18.23	8.54	13.19	3.93	1.85	20.24
川崎市	川崎区	川崎	6.71	17.77	5.44	12.65	14.26	4.30	9.03	3.13	2.10	11.08
名古屋市	中村区	名古屋	5.23	5.60	5.40	4.92	22.91	4.11	11.88	4.04	3.51	21.22
京都市	下京区	京都	2.03	4.33	2.69	3.15	27.91	3.59	14.40	3.37	2.84	17.70
大阪市	北区	大阪	5.75	4.07	9.43	2.40	19.94	6.53	13.51	3.52	2.50	19.39
神戸市	中央区	三ノ宮	2.84	6.48	4.19	6.79	21.30	4.49	15.72	4.54	2.51	15.32
広島市	中区	広島	5.96	3.88	5.31	2.00	20.45	4.90	13.52	3.57	2.38	14.97
福岡市	博多区	博多	6.45	3.88	6.73	5.13	27.33	3.72	10.81	3.42	1.89	15.56
11市の駅前エリア平均			5.19	4.93	5.75	4.38	21.17	4.84	12.84	3.89	2.91	17.44

□ 各項目で11市の駅前エリア平均を上回っている区 (単位:%)

出所: 経済産業省「平成26年(2014年)経済センサス基礎調査」よりOKB総研にて作成

(※1) 民営事業所の従業者数の割合。また、平均は端数処理前の数値で算出した。図表6も同じ。

(※2) 農林漁業、特定企業により割合が大きく変動する産業(「電気・ガス・熱供給・水道業」「金融業、保険業」「医療、福祉」など)、算出の結果都市間の差が少なかった産業(「不動産業、物品賃貸業」など)、公務は除く。

の名駅再開発に関わる事業者や市民などが「名駅から多様な人材の活躍を生み出す」という目標を共有できるよう、一層のリーダーシップが望まれる。

多様な人材の活躍を生み出す拠点では、「フラットな交流」と「キャリアアップ支援」という拠点のコア(核)となる二つの方針のもとに、以下に述べる四つの機能によって、多様な人材の来訪・交流・挑戦・活躍という循環をつくり

出していくことが考えられる(図表9)。

①企業や大学が情報発信をする施設【来訪を促す】

まずは、多様な人材が名駅地区に訪れるようにするために、企業が製品や技術などを発信したり、大学が研究成果を紹介したりする施設を拠点内に設けることが考えられる。

例えば、短期間・小規模から区画を

借りられるようにすれば、大手からベンチャー企業までが情報発信したいタイミングで出展したり、大学が研究室単位で出展したりできるだろう。

また、新技術をアピールする体験型展示などによって、買い物や通勤などで名駅地区を訪れる人をはじめ、研究者、技術者、クリエイターなど多様な人材が気軽に訪れて、自由に見学できる場にしていくべきだ。

図表6 駅前エリア相当区の従業者数の業種別割合

全体 (単位:%)

□ 各項目で11市の駅前エリア平均を上回っている区

市名	区名	駅名(JR)	情報通信業		学術研究、専門・技術サービス業		宿泊業、飲食サービス業	
			ソフトウェア業	インターネット 付随サービス業	デザイン業	建築設計業	旅館、ホテル	専門料理店
札幌市	中央区	札幌	3.02	0.44	0.14	1.03	2.26	3.29
仙台市	青葉区	仙台	2.39	0.25	0.08	1.66	1.22	3.58
さいたま市	大宮区	大宮	1.17	0.08	0.01	0.64	0.63	4.64
横浜市	西区	横浜	7.45	0.21	0.04	0.32	1.82	4.51
川崎市	川崎区	川崎	5.04	0.01	0.01	0.16	0.47	2.58
名古屋市	中村区	名古屋	3.84	0.12	0.06	0.55	1.39	3.78
京都市	下京区	京都	1.81	0.17	0.11	0.40	3.29	4.38
大阪市	北区	大阪	3.81	0.45	0.28	0.94	1.67	4.33
神戸市	中央区	三ノ宮	2.27	0.10	0.08	0.49	1.23	4.78
広島市	中区	広島	2.21	0.12	0.09	0.91	1.32	3.40
福岡市	博多区	博多	3.78	0.52	0.06	1.30	1.41	2.48
11市の駅前エリア平均			3.35	0.22	0.09	0.76	1.52	3.80

男性 (単位:%)

市名	区名	駅名(JR)	情報通信業		学術研究、専門・技術サービス業		宿泊業、飲食サービス業	
			ソフトウェア業	インターネット 付随サービス業	デザイン業	建築設計業	旅館、ホテル	専門料理店
札幌市	中央区	札幌	4.72	0.50	0.17	1.56	2.10	3.15
仙台市	青葉区	仙台	3.60	0.28	0.09	2.45	0.97	3.16
さいたま市	大宮区	大宮	1.86	0.09	0.01	0.92	0.50	3.62
横浜市	西区	横浜	10.91	0.27	0.05	0.42	1.62	3.96
川崎市	川崎区	川崎	6.57	0.01	0.02	0.19	0.32	1.93
名古屋市	中村区	名古屋	5.66	0.15	0.08	0.83	1.23	3.04
京都市	下京区	京都	2.76	0.21	0.11	0.54	3.25	4.14
大阪市	北区	大阪	5.42	0.46	0.28	1.27	1.45	3.72
神戸市	中央区	三ノ宮	2.72	0.11	0.07	0.68	1.11	4.39
広島市	中区	広島	3.40	0.16	0.11	1.35	1.24	2.98
福岡市	博多区	博多	5.33	0.52	0.06	1.74	1.10	2.12
11市の駅前エリア平均			4.81	0.25	0.10	1.09	1.35	3.29

女性 (単位:%)

市名	区名	駅名(JR)	情報通信業		学術研究、専門・技術サービス業		宿泊業、飲食サービス業	
			ソフトウェア業	インターネット 付随サービス業	デザイン業	建築設計業	旅館、ホテル	専門料理店
札幌市	中央区	札幌	1.07	0.37	0.11	0.43	2.46	3.47
仙台市	青葉区	仙台	0.94	0.21	0.08	0.72	1.52	4.12
さいたま市	大宮区	大宮	0.41	0.07	0.00	0.34	0.76	5.78
横浜市	西区	横浜	2.91	0.12	0.04	0.19	2.08	5.26
川崎市	川崎区	川崎	2.08	0.02	0.01	0.11	0.78	3.92
名古屋市	中村区	名古屋	1.54	0.09	0.05	0.20	1.61	4.72
京都市	下京区	京都	0.78	0.12	0.11	0.24	3.34	4.65
大阪市	北区	大阪	1.67	0.36	0.29	0.52	1.69	5.21
神戸市	中央区	三ノ宮	1.75	0.09	0.08	0.26	1.37	5.24
広島市	中区	広島	0.91	0.07	0.08	0.42	1.43	3.91
福岡市	博多区	博多	1.59	0.52	0.06	0.68	1.87	3.00
11市の駅前エリア平均			1.42	0.19	0.08	0.37	1.72	4.48

出所：経済産業省「平成26年(2014年)経済センサス基礎調査」よりOKB総研にて作成

出展企業・大学にとっては、来訪者へ情報発信だけでなく、来訪者から意見や評価をもらうことができる。また、出展者同士がお互いの取り組みを知る場にもなりうる。

②幅広い人材が交流できる仕組み・場所【交流を促す】

次に、名駅地区を訪れた多様な人材の交流を促すために、科学技術、経済、文化、暮らしなどをテーマにしたセミナーやワークショップ、企業や大学の研究発表会などを定期的に拠点内で開催することが考えられる。

昼間だけでなく夕方以降にもセミナーを開くなど、名駅地区やその近隣で働いている人が仕事帰りに参加できるような工夫をして、参加の輪を広げていくことが望ましい。

また、セミナーなどの参加者が交流を深める中で、同じテーマに関心を持つ人同士で集まったり、異業種交流を目的とした勉強会を開いたりしやすいように、参加者専用の交流スペースやカフェなどを設けることが考えられる。

交流スペースには専門のスタッフや事務局を置いて、参加者と普段からコミュニケーションを取り、共通の問

題意識を持つ人同士を引き合わせるなど仲間づくりを後押しする。

最終的に、ナレッジキャピタルの「ナレッジサロン」のような、研究者やクリエイターなどを含めた多様な人材が、新しいプロジェクトの場を求めて参加する会員制サロンを設置することも考えられる。

③新しいプロジェクトや創業を支援する施設【挑戦を促す】

多様な人材の来訪や交流を経て、名駅地区からさまざまな挑戦が生まれるのを促すために、②の参加者か

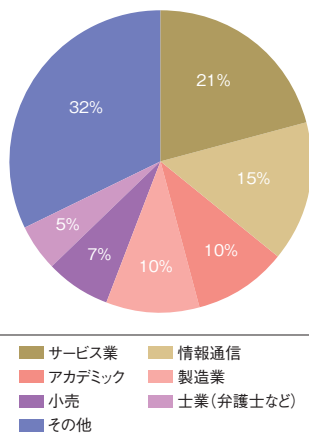
図表7 「ナレッジキャピタル」内にあるナレッジサロンの様子と会員の状況



図表8 「福岡市スタートアップカフェ」の様子と同施設を利用して起業した100社の状況

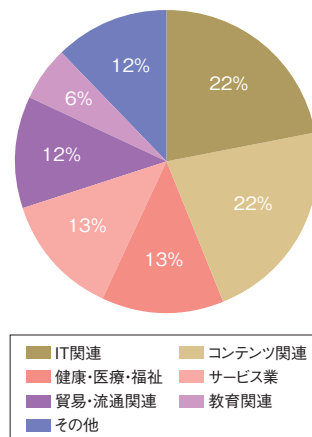


ナレッジサロン会員2,018人の主な属性(2017年3月末時点)



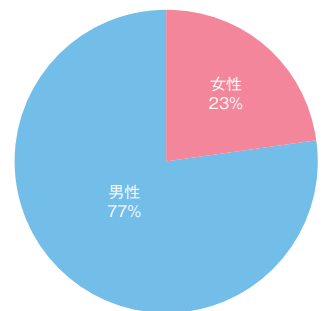
出所：一般社団法人ナレッジキャピタル報道発表資料よりOKB総研にて作成。写真はナレッジキャピタル提供

100社の主な事業分野



出所：福岡市役所報道発表資料よりOKB総研にて作成。写真は筆者撮影

100社の代表者の性別



ら新しい活動やプロジェクトが始まる際に、関連する分野の企業や専門家を紹介するなどのサポートを行う施設を拠点内に設けることが考えられる。

交流を通じて起業・独立を目指すようになる人にも対応するため、サポート施設には創業に関する相談窓口や、創業時に必要な支援を行う体制を加える必要があるだろう。創業したばかりで資金力に乏しい企業や個人起業家が活動しやすいよう、共同で使えるオフィススペースを設けることなども考えられる。

④新しいプロジェクトや産学官連携の実験・発表の場としての施設 【活躍を促す】

最後に、多様な人材が名駅地区で活躍してやりがいを感じるようにする

ために、名駅地区で始まった新しいプロジェクトや産学官連携に関わる人・企業・団体が、テストマーケティングや実証実験のために出展できる施設や、プロジェクトや連携の成果を発表するための会場施設を拠点内に設けることが考えられる。

また、プロジェクトや連携を通じて成長した企業が、①の情報発信施設に改めて出展するような流れをサポートする。

④の施設をまちづくり全体に活用する試みも考えられる。例えば、名古屋市は名駅再開発の一環でBRT（バス高速輸送システム）など新しい路面公共交通システムを検討している。市役所でBRTの推進を担当する部署が施設内にオフィスを構えて、大学や自動車関連企業などと連携を深

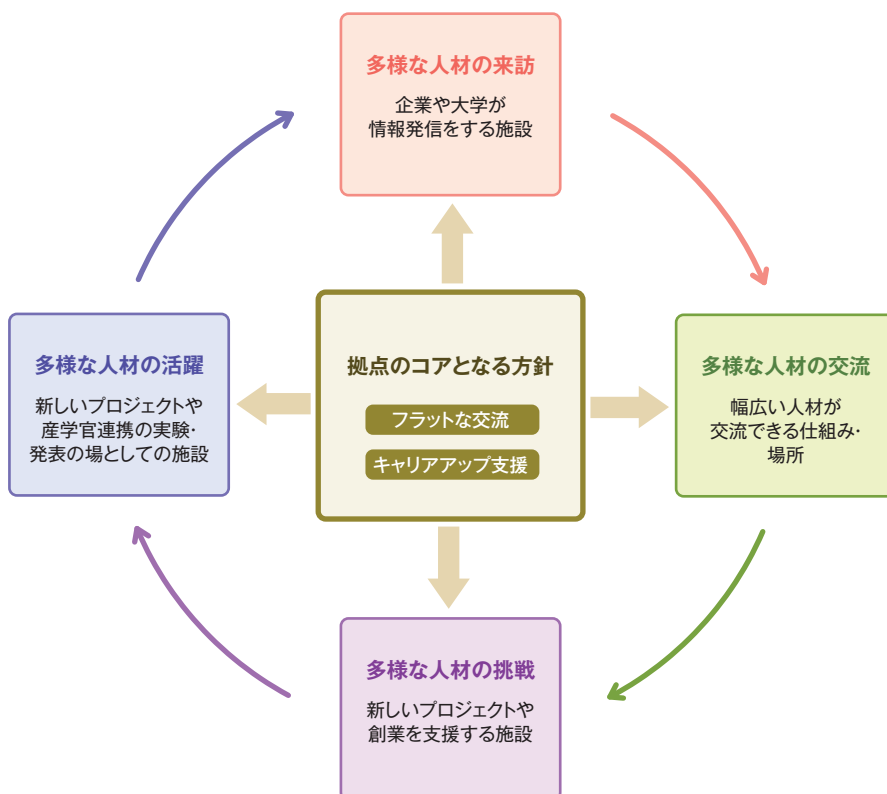
めるとともに、構想や計画の状況を市民に公表していくような取り組みは、まちづくり人材が名駅地区に集まり、活躍する機運の向上につながるだろう。

4 おわりに

名古屋市ではリニア開業によってヒト・モノ・カネ・情報がより大きな都市圏である東京へ吸い上げられる「スロー現象」を懸念する声が少なくない。

こうした中で、名古屋の玄関口である名駅地区の今後の再開発において、広大な商業施設や大量のオフィスなどに限らず、多様な人材の活躍に着目した戦略を進めていくことは、都市間競争の中で「名古屋らしい強さ」を発揮していく基盤になると思われる。名駅地区、ひいては名古屋が多くの人にとって働きがいのある都市になっていくことを期待したい。

図表9 多様な人材の活躍を生み出す拠点のイメージ



(注1) 経済産業省「第4次産業革命クリエイティブ研究会」(2016年11月~2017年3月開催)の資料・報告書など参照。

(注2) 福岡市人口ビジョン(2015年10月策定、2017年2月更新追加)、同市「グローバル創業都市・福岡」ビジョン(2015年3月)参照。

参考文献

奥野信宏、黒田昌義「リニア新世紀 名古屋の挑戦」(ディスカヴァー・トゥエンティワン、2017年7月)

「名古屋市まち・ひと・しごと創生総合戦略」(2016年3月)

日本政策投資銀行東海支店レポート「2015年の名古屋展望～『職・住・遊・学』の近接でNagoyaブランドの構築を～」(2012年12月)

(2017.11.2)

OKB総研 調査部 中村 紘子